

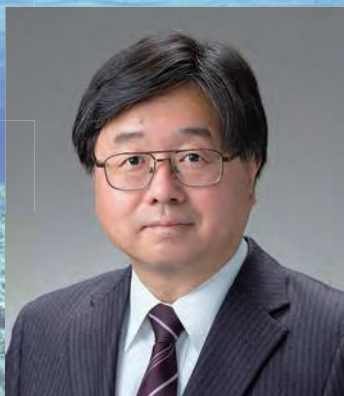
# うみとうみの生き物

## 第一部 基調講演

### 「変わりつつある海 ～これまでとこれから～」

東京海洋大学 学術研究院  
海洋環境科学部門 教授

神田 穰太



#### Jota Kanda

新潟県生まれ  
東京大学大学院理学系研究科博士課程  
修了(理学博士)  
東京大学海洋研究所助手、静岡大学助  
教授、東京水産大学助教授、東京海洋  
大学助教授・准教授等を経て、現在に至  
る。

### 「地球温暖化が サケ類に及ぼす影響 ～縄文海進から学ぶ～」

北海道大学 名誉教授

帰山 雅秀



#### Masahide Kaeriyama

北海道生まれ  
北海道大学院水産科学研究院博士  
課程修了(水産学博士)  
水産庁、北海道東海大学工学部海洋開  
発工学科教授、アラスカ大学フェアバンク  
ス校水産海洋学部客員教授、北海道大  
学大学院水産科学研究院教授等を経て、  
現在に至る。

## 第二部 成果報告

### ●「海中のトリチウムは魚の体内にどのくらい入る?たまる?」

環境科学技術研究所 環境影響研究部 石川 義朗

### ●「世界の海のトリチウム濃度の変遷と六ヶ所村沖での観測例」

日本海洋科学振興財団 むつ海洋研究所 小藤 久毅

#### 日時

令和5年

9月7日(木)

13時30分～16時30分 (開場13時)

第1部 基調講演 (13:35～15:15)

第2部 成果報告 (15:25～16:25)

#### 会場

六ヶ所村文化交流プラザ  
スワニー 大会議室1～4

青森県上北郡六ヶ所村大字尾駁字野附1-8  
TEL 0175-72-3400

#### お申し込み方法

参加をご希望の方は、裏面のがきに住所、氏名  
等を記入して郵送またはFAXでお申し込みくださ  
い。電子メール、ホームページからのお申し込みも  
可能です。

#### 会場周辺図



お申し込み・お問い合わせ:公益財団法人 環境科学技術研究所 共創センター

TEL.0175-71-1240 FAX.0175-71-1270

〒039-3212 上北郡六ヶ所村尾駁家ノ前 1-7 [ホームページ](http://www.ies.or.jp/) <https://www.ies.or.jp/> [電子メール](mailto:kanken@ies.or.jp) kanken@ies.or.jp

主催: 青森県 (公財)環境科学技術研究所 (公財)日本海洋科学振興財団

# FAX 送信の場合 0175-71-1270へ

・本はがきで収集した個人情報、本報告会の運営に関する当研究所からのご連絡やご案内にのみ利用いたします。

(キリトリ線)

郵便はがき

0393290

上北郡六ヶ所村

尾駸家ノ前一番七

公益財団法人

環境科学技術研究所

共創センター 共創推進課 行



差出有効期間  
令和5年9月6日  
(切手不要)

お名前	フリガナ	参加人数	人
住所	〒		
電話番号	( ) ( )		

環境科学セミナー (六ヶ所会場)

放射線に関する事など聞きたいことをお寄せください。



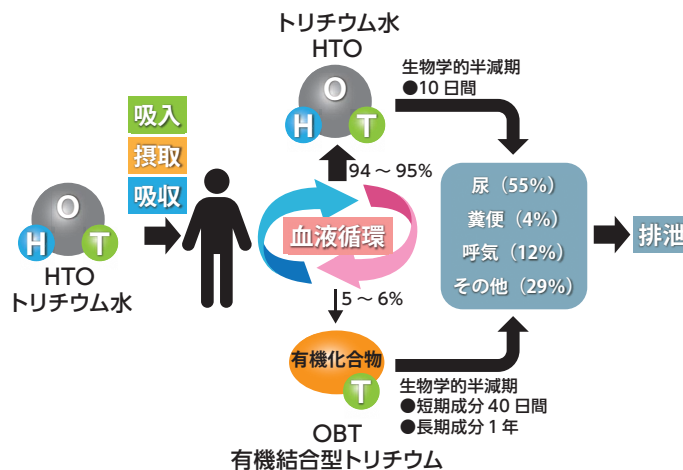
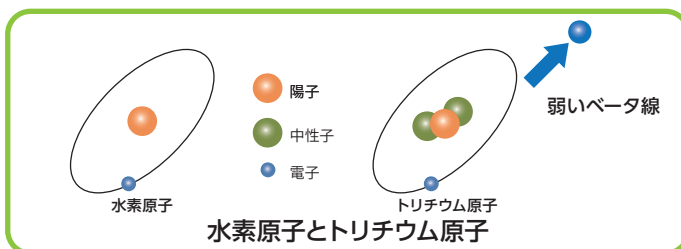
(裏にマキ)

## トリチウムの生体影響について調べています

再処理工場からは、通常の運転時でも水素の放射性同位体であるトリチウムが空気中や海に排出されます。

排出されるトリチウムによる人体への放射線被ばく量は自然放射線より少ないとされていますが、より詳しく評価するため、環境科学技術研究所（六ヶ所村）では、令和4年度トリチウム研究センターを立ち上げ、これまでの環境中でのトリチウムの動きに関する調査に加え、トリチウム水（HTO）、有機結合型トリチウム（OBT）といった化合物の違いと生体への影響との関係の解明に関する研究を行っています。

トリチウムは水素の仲間であり、そのほとんどがトリチウム水として存在しています。トリチウムから出る放射線は弱いベータ線のみですので、内部被ばくが考慮すべき課題になります。内部被ばく量は、トリチウムが水である場合と有機結合型である場合で違いがあるのではないかとの声もありますが、現在の基準は体内への滞在時間の推定に基づく代表値になっています。環境科学技術研究所では、化合物ごとの詳細な解析に取り組みます。



日本放射線影響学会「トリチウムによる健康影響」より

調査の詳細はホームページ (<https://www.aomori-hb.jp/>) をご覧ください。